

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19402022

研究課題名 (和文) フィリピンにおける慢性的貧困と社会ネットワーク

研究課題名 (英文) Chronic Poverty and Social Network in the Philippines

研究代表者

中西 徹 (NAKANISHI TORU)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：30227839

研究代表者の専門分野：開発研究・地域研究

科研費の分科・細目：

キーワード：フィリピン，社会ネットワーク，慢性的貧困，コミュニティ

1. 研究計画の概要

本研究は、フィリピンにおける階層固定的な社会構造を、社会ネットワーク分析の立場から捉え直し、貧困をめぐる議論に新しい視点を提供することである。すなわち、フィリピンにおける富裕層、中間層、貧困層を対象として、長期の参与観察と質問票調査によって収集したデータを用い、固有のネットワーク構造を析出することによって、貧困層が有する民衆知をふまえた新しい開発研究の枠組みを構築することを目的としている。

2. 研究の進捗状況

マニラ首都圏に加え、ダバオ州、セブ州、パンガシナン州、アルバイ州の地方都市、農村について調査を行い、次の速報結果が得られた。

(1) 中間層の定義にもよるが、中間層と貧困層の間には、両者が認識する親族、儀礼親族ネットワークが観察され、それは貧困層にとっては「弱い紐帯」としての役割を有する。以上の論点については、Nakanishi(2009a)において議論を展開した。

(2) マニラ首都圏のスラム地区においては、複数の異なる性質の情報を利用して、ネットワーク構造上の中心者、仲介者から末端者に至る情報到達経路を特定化し得るデータを収集し、その分析から、従来からの親族重視のコミュニティが形成している可能性が示唆される。すなわち、生活水準が上昇し、「弱い紐帯」が優越する条件が整いながら、排除性の高い情報は依然として「強い紐帯」である親族内を流通している。この事実は、市場経済に対して慣習経済が予想以上に頑強であることを示唆している。以上の論点に

については中西 (2008, 2009) や Nakanishi (2009b, 2009c) などにおいて議論を展開した。

(3) 本研究の副産物として、貧困層の社会ネットワークの拡大にブレーク・スルー的なインパクトをもたらし、階層流動性を決定づける有力大学へのアクセスについての仮説が提示され、同時に、その検証に必要なデータも収集された。すなわち、フィリピンにおける有力大学においては、形式的、表面的な機会の平等性を担保しながらも、その実は、貧困層にとっては入試にさえアクセスが困難になる制度的諸問題が存在することがあきらかになった。以上の論点については、中西 (2010) において議論を展開した。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

(理由)

たしかに、この研究は、質問項目が多岐に及び調査を難しくする要素を多く含み、地方によっては調査自体が困難となる場合も多々見られた。その理由から、とりまとめ作業に遅れが生じているのは事実である。

しかし、この事態は当初から予想されていたことであり、当初の計画には織り込み済みである。時間はかかったものの、信頼性の高いデータを収集することが可能になった。本研究において収集された一次データの学術的価値は著しく高いものであると自負している。

また、情報の送受信において、人々が利用する社会ネットワークの選択から慣習経済の優越性を測定する枠組みを提示する道筋が立ったことも、本研究の独創性を高めるも

のと考えられる。

さらに、副産物として得られた有力大学を中心とする入試制度の問題は、貧困層が有する社会ネットワークの拡大を阻害するメカニズムの解明に大きな役割を果たすものと期待される。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度は、以下のような方策にもとづいて、最終とりまとめ作業を行う。

(1) 社会ネットワーク・データが多岐にわたるため、集約作業を再確認し、統合的枠組みの下でデータ値を確定する。

(2) 仮説検証にあたり、利用データに不足や不備が生じたり、定性的な補足データが追加的に必要になったりする場合に、補足調査を実施し、データの厳密性を保持する。

(3) 確定したデータに基づき、速報における仮説検証を再検討し、補正する。

(4) 最後に、最終報告書とりまとめを行う。報告書は年度内にフィリピンの研究協力者や同一分野の研究者とのセミナーを開催し、英語による報告書出版を目指す。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

(1) 青山和佳 (2008)

「開発援助を眺める 経済学から人類学的実践への旅」『国際開発研究』第17巻第2号、pp.23-33

(2) 中西徹 (2010)

「フィリピンの『市民社会』と『悪しきサマリア人』」『SGRAレポート』52号 33-41頁

(3) 青山和佳 (2009)

「開発援助の現場における解釈コミュニティの出現 フィリピン・ダバオ市のバジャウ集落を事例に」『アジア研究』第55巻第4号、pp.55-75

[学会発表](計3件)

(1) Nakanishi, Toru (2009a)

“Migration, Poverty and Community Dynamics,” *10th Shared Growth Seminar: Labor Migration and Poverty*, University of Asia and Pacific, May 7, Manila.(招待講演, 内容はStaff Memoとして近刊)

(2) Nakanishi, Toru (2009b)

“Autonomous Community Development Process in Urban Poor Communities Community,” *Seminar: Facilitative Roles in Community Development*, Temple University of Japan, November 26, Tokyo.

(3) Nakanishi, Toru (2009c)

“Education for All and Education for Elites: Education Strategy for the Poor in the Philippine Setting,” FIAT Foundation, December 18, Manila, The Philippines (招待講演).

[図書](計6件)

(1) 中西徹 (2008)

「深化するコミュニティ」(高橋哲哉・山影進編『人間の安全保障』東京大学出版会 174~188頁)

(2) 青山和佳・受田宏之 (2008)

「貧しきマイノリティの発見 アイデンティティを資源化する」佐藤仁編『資源を見る眼 現場からの分配論』東信堂、2008年3月

(3) 中西徹 (2009)

「マニラ：都市貧困層の社会ネットワーク」藤巻正己他編『新・世界地理』, 朝倉書店, 280~294頁.

(4) 青山和佳 (2009)

「他者の生き方を書く 貧困研究と人類学」下村恭民・小林誉明編著『貧困問題とは何であるか』勁草書房

(5) 青山和佳 (2010)

「福音とパン フィリピン、ダバオ市の『バジャウ』のキリスト教受容」加藤剛・長津一史編著『開発の社会史』風響社

(6) 青山和佳・受田宏之・小林誉明編著(近刊)『援助がつくる社会生活』大学教育出版

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]